

➤ 15日 水曜

列王 I

17:1 ギルアデの住民であるティシュベ人エリヤはアハブに言った。「私が仕えているイスラエルの神、【主】は生きておられる。私のことばによるのでなければ、ここ数年の間、露も降りず、雨も降らない。」

17:2 それから、エリヤに次のような【主】のことばがあった。

17:3 「ここを去って東へ向かい、ヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに身を隠せ。

17:4 あなたはその川の水を飲むことになる。わたしは鳥に、そこであなたを養うように命じた。」

17:5 そこでエリヤは行って、【主】のことばどおりにした。彼はヨルダン川の東にあるケリテ川のほとりに行って住んだ。

17:6 何羽かの鳥が、朝、彼のところにパンと肉を、また夕方にパンと肉を運んで来た。彼はその川から水を飲んだ。

17:7 しかし、しばらくすると、その川が涸れた。その地方に雨が降らなかったからである。

17:8 すると、彼に次のような【主】のことばがあった。

17:9 「さあ、シドンのツアレファテに行き、そこに住め。見よ。わたしはその一人のやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

17:10 彼はツアレファテへ出て行った。その町の門に着くと、ちょうどそこに、薪を拾い集めている一人のやもめがいた。そこで、エリヤは彼女に声をかけて言った。「水差しにほんの少しの水を持って来て、私に飲ませてください。」

17:11 彼女が取りに行こうとすると、エリヤ



は彼女を呼んで言った。「一口のパンも持って来てください。」

17:12 彼女は答えた。「あなたの神、【主】は生きておられます。私には焼いたパンはありません。ただ、かめの中に一握りの粉と、壺の中にほんの少しの油があるだけです。ご覧のとおり、二、三本の薪を集め、帰って行って、私と息子のためにそれを調理し、それを食べて死のうとしているのです。」

17:13 エリヤは彼女に言った。「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。その後で、あなたとあなたの子どものために作りなさい。」

17:14 イスラエルの神、【主】が、こう言われるからです。『【主】が地の上に雨を降らせる日まで、そのかめの粉は尽きず、その壺の油はなくなる。』」

17:15 彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。

17:16 エリヤを通して言われた【主】のことばのとおり、かめの粉は尽きず、壺の油はなくならなかった。

歴代の王たちが偶像に仕えた要因として、他国の同盟と豊穡のためということがあります。バアルは豊穡の神です。

まことの神、主はバアルがただの偶像であることを明かすために、預言者エリヤを用いますが、彼自身も信仰に立っていなければ意味がありません。そこで主は彼を鳥や貧しい家族によって養ったのです。主の証人は主の恵みによって生きる覚悟が必要です。

後に起こるバアル信仰との対決は信仰による戦いであり、主はそのためにエリヤの信仰を成長させたのです。彼は主のことばに従うことによって、体験し成長したのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

